

2015年(平成27年)3月10日(火)

高知市新庁舎

県産丸太で液状化対策

「地産地消」工法導入へ

高知市は市役所新庁舎用地の液状化対策として、建物下の地中に丸太を打ち込む新工法を導入する方針を決めた。高知大学の研究グループなどが開発した工法で、1万7千本と想定される丸太は全て県産材を使う、「地産地消」の工事となる。(大山泰志)

新庁舎は地上6階、地下1階で、現庁舎と市民図書館を解体した跡地に建設する。2018年度中の利用開始を目指して基本設計の取りまとめなどを行っているが、用地は水を多く含んだ軟弱な地盤で、地震の揺れで液状化することが危惧されている。市は、地面に掘った穴に砂を入れ地盤を安定させる従来工法を予定していたが、検討過程で同大学の原忠教授らが開発した「丸太打設液状化対策&カーボンストック」工法に着目。県産材が使える地域活性化につながる▽従来工法より使用する重機が小さく、工事の振動や騒音を軽減できる一などの利点から導入を決めた。

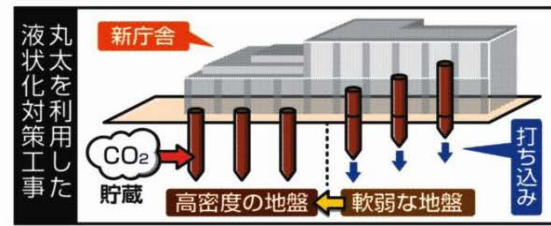
市役所新庁舎用地の液状化対策として、建物下の地中に丸太を打ち込む新工法を導入する方針を決めた。高知大学の研究グループなどが開発した工法で、1万7千本と想定される丸太は全て県産材を使う、「地産地消」の工事となる。(大山泰志)

原教授は「穴を掘る必要がないので残土が発生せず、木が吸収した二酸化炭素を地中に貯蔵できる、環境に優しい工法」と説明。千葉県などで12年度から実用化され、県内でも同市仁井田の県森林組合連合会所有地で地盤改良に採用されているが、新庁舎が最大規模の事例になるという。

市の計画では、建物下の約7100平方メートル、長さ約3・5メートル、直径16センチの丸太を65センチの間隔で、計1万7千本打ち込む。丸太によって地盤が締め固められ、高密度になることで、液状化を防ぐことができるという。

市役所新庁舎建設課は「費用は3千万〜4千万円高くなるが、環境に配慮するという庁舎

のコンセプトに合い、木材利用促進にもつながる。利点は大きい」としている。



市の計画では、建物下の約7100平方メートル、長さ約3・5メートル、直径16センチの丸太を65センチの間隔で、計1万7千本打ち込む。丸太によって地盤が締め固められ、高密度になることで、液状化を防ぐことができるという。